

茨城キリスト教大学大学院 / 茨城キリスト教大学
茨城キリスト教学園高等学校 / 茨城キリスト教学園中学校
茨城キリスト教大学附属認定こども園(みらい園・せいじ園)

発行日 2022.09.15.THU
編集・発行: 法人事務局学園広報担当

バックナンバーも含めて
学園HPでご覧いただけます →



太平洋を一望にする 新たな学びの新校舎



くわしくは
コチラから!

大学新1号館が竣工しました

大学新1号館 竣工



新校舎は、建学の精神に基づき、本学が特に重要視している「グローバル教育」と「地域貢献」を体現した建物になっていることを実感していただければ幸いです。最上階にグローバルと地域(ローカル)を掛け合わせた名称のグローバルラウンジ。そこには太平洋に思いを馳せ、さらに海外で起こっていることにも意識しながら学修できるスタディエリア、日本語以外の言語でコミュニケーションを実践するグローバル・エクスチェンジエリア、地域の方々にも参加していただける学びの場となる多目的エリアがあります。各階にある自主学修エリアや2つの対策室を併設したキャリア支援センターの設置により、学生サービスもさらに充実させました。

茨城キリスト教大学 学長 上野 尚美

大学附属認定こども園の園児と大学生が『労作体験』に参加しました。



労作体験について

大学の児童教育学科では、自然環境や表現活動について、手を動かし肌で感じた体験を、教育現場で生かせるよう体験型授業を重視しています。例えば「労作体験」では学内の畑で作物を育て、その経験を小学校や認定こども園等で自然の不思議と生命の尊さを教える際に生かします。

今回は、この畑を大学附属認定こども園の園児が訪問し、大学の先生や学生と共にジャガイモ掘りの体験をしました。

自分たちの手でジャガイモを掘り五感を通して自然に触れ、神さまの恵みに感謝する1日になりました。また、大学の先生や大学生と関わることで、いろいろな人と関わる楽しさを味わう機会にもなりました。同じ学園内での協働ですので、安心・安全な環境のもと、このような取り組みが実現できます。

活動のサポートで参加していた穂積ゼミの大学生から収穫用の袋を笑顔で受け取り、畑へ向かいます。



カラフルな軍手を見せ合いながら労作体験を心待ちにする園児たち。



目の前に並ぶたくさんのジャガイモに夢中な園児たち。形や色の違いに注目して楽しんだり、土の中から出てくる虫に驚いたり、短い時間ながら様々な経験をしていました。

先生方へのインタビュー



大学附属認定こども園 園長 小幡 幸和 先生

• 改めて、「労作体験をやる意義」を小幡先生の言葉で教えてください。
何よりも、自分の手でじゃがいもを掘る経験を通して、収穫の喜びと自然にふれる喜びを幼児が味わうことだと思います。そのことが豊かな感性を育むと確信しています。また、神さまの恵みに感謝する(*)心を育てるという意義もあります。

※キリスト教保育を行うせいじ園・みらい園では、雨のことを「恵みの雨」と呼びます。雨が降ると大変なこともあります。その雨のおかげで地に草が芽生え、花が咲き、作物が実るからです。そして、園の行事である秋の「感謝祭」では、穀物や野菜、果物を実らせてくださる神様の恵みに感謝するのを持っています。このように、わたしたちの生活に必要なものを与えてくださる神様の恵みに感謝するのは、園の日常に根付いている精神なのです。

• 今後の認定こども園での取り組みへの展望をお聞かせください。
今回の労作体験のような、大学の附属園だからこそできることをこれからも園児たちにたくさん体験してもらいたいと考えています。そもそも、学園の広いキャンパス内で、せいじ園・みらい園のこどもたちが森のように生い茂る木々の間を散歩したり、ふかふかの芝生の上を飛び回ったり、チャペルのような素敵な建物に出会えることも、良い体験になっています。

また、大学の先生方や学生の協力により、労作体験の他にも大学とのさまざまな連携の機会を本園では持っています。

例) 大学生と英語で遊ぶ時間 / 大学生と音楽や楽器作りを楽しむ体験 / 大学の体育館を使っている特別な幼児体育の時間
大学の先生による造形の時間 / 実習でやってくる学生とのふれあい / 給食の試食 / 海外からのインターン学生との交流など

それに加えて学園の高校生との交流もあります。ここしばらくは感染対策上実施が難しくなっている取り組みもありますが、できる限りにおいて、これからも幅広い世代との交流やユニークな体験の機会を園児たちにはたっぷり持ってもらいたいと考えています。

文学部 児童教育学科 准教授 穂積 訓 先生

• 今日の園児の様子を見て感じたことはありますか？
畑の中に入った子どもたちは、土から出ていたイモを見つけてこれからの活動に期待しているように感じました。労作体験が始まると、大きなイモを見つけたり、変わった形のイモを見つけたり、袋に入れたたくさんのイモの重さを確かめたりして、とても嬉しそうにしていました。また、虫が苦手な子や土掘りが苦手そうな子も頑張って活動したり、途中イモ堀りを終えた子も掘ったイモを友達や教員・学生と見せ合ったりしていました。総じて楽しんで活動してくれたかと思います。
この「虫嫌い」は幅広い年代に広がっており、教員養成に携わる人間としてはどう取り組むか常に頭を悩ませている問題です。短時間の活動ではありますが、それぞれの子どもたちが楽しんで活動できるような環境および授業で学生と取り組む活動について、改めて考える機会になりました。



• 今回は本学学生もサポートで参加していましたが、学生にこのような活動を通して感じてほしいことはありますか？
今回、サポートに入ってくれた学生たちは、すでに何度も教育実習・保育実習を経験しています。私が評価をするのもおこがましいですが、子どもたちとの関わり方・援助の仕方についてもよく考えており、とても優秀であると思います。一方で、実習では関わることのできない事柄も多くありますので、教育・保育に関わらずですが、在学中にさまざまな体験をして欲しいと思います。

学生には、畑での活動だけではなく、こども園の子どもたちや教職員の方々との交流や活動、学園内のつながりを知る機会になればと思い参加を依頼しました。それとは別に、もし園芸活動が趣味の1つになるきっかけになれば、担当者としては嬉しい限りです。

茨城キリスト教学園では、総合学園のつながりを活かした
〈認定こども園・大学の連携による実践的な幼児教育〉をますます盛んにし、
園児と大学（教職員・学生）双方の成長機会の提供を図っていきます。

また、本特集記事の概要版は
学園ホームページにも掲載されています。



労作体験の記事はこちらをチェック!
(学園HPへ遷移します)



H TOPICS



新校舎 お披露目会、開催!

8月のはじめに竣工した大学1号館を会場に、大学と高校の新校舎のお披露目会を開催し、地域・教育・行政・企業関係者などおよそ150名の方にご参加いただきました。太平洋が望める5階のラウンジからの眺望や、様々な学びの場となる広大な空間を体験してもらいました。3月末に竣工した高校新校舎では丘の斜面を利用した多目的ホールに訪れた方の関心が集まっていました。

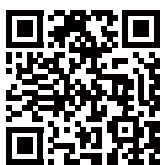
英語探検クラブ、実施!

8月8日～10日の3日間、日立市の小学4・5年生を対象に、現代英語学科学生と留学生が中心となり、「小学生英語探検クラブ」を実施しました。当イベントは楽しく英語にふれることがコンセプト。ゲーム感覚のロールプレイや五感全体で楽しむアクティビティに、子どもたちからは「来年も参加したい!」といった声をいただきました。



各部活動、 夏の大躍進!

この夏は部活動の活躍が目立ちました。陸上競技部、女子硬式テニス部、ワンダーフォーゲル部女子チームは夏のインターハイに出場。また、野球部は、夏の高校野球茨城県大会2回戦で強豪の水戸商業高校を破るなど活躍を見せてくれました。コーラス部はNHK全国音楽コンクール茨城県コンクールで金賞を、朝日新聞社主催の茨城県合唱コンクールで最優秀賞をそれぞれ受賞し、どちらも関東大会への出場を決めました。今後も多くの部活動の活躍が期待されます。応援よろしくお願いします。



中高トップページから各部活動の活躍がご覧いただけます。

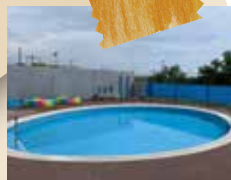
アンケートにご協力ください!

アンケートはこちらから



ご意見・ご感想はもちろん、こんな人・活動を取り上げてほしい!などネタ提供もお待ちしております!

本ニュースレターに関するお問い合わせ先:gakuenkoho@icc.ac.jp
法人事務局 学園広報担当 新妻 幹生
[電話の場合は、0294-52-3215(代)]



楽しかったね! プール遊び

みらい園・せいじ園には、大きなプールがあります。猛暑だった今年の夏も、園児たちはプールで大好きな水遊びを満喫しました。水の冷たさや気持ち良さを全身で感じたり、泳ぐことに挑戦したり、大喜びで取り組む姿がたくさん見られました。夏の生活を楽しみ、様々な経験を積み重ねて成長した園児たちです。2学期の成長も楽しみですね。



Summer Festival at ICJH (オープンスクール) を実施しました

昨年は新型コロナウイルスの緊急事態宣言で中止を余儀なくされた Summer Festival at ICJH(オープンスクール)。今年は密対策を徹底したことで念願叶い、実施に至りました! 本学園に興味を持っていただいた多くの小学生とご家族にご参加いただきました。特に英会話体験と小学生を対象にした体験授業(国・算・理・社)は非常に人気のある企画で、今年も大変好評でした。

編集の一と!



学園広報 にいつま もとみ 新妻 幹生

こんにちは、学園広報の新妻です。8月末から急に秋を感じるような冷たい風が吹くようになり、少し物寂しいですね。学園ニュースレター『つなぐ』vol.4、発行しました。新型コロナウイルス感染症の影響で、依然としてなかなか物事を進めにくい状況が続いている中、学園各所でできることを粛々と・前向きに進めている様子が伺えます。しかし、コロナ禍だからこそ見えてきたこと、できるようになったこと、改めて気づいたことなど…があるはず。学園広報としては、学びを止めずに日々奮闘する各設置校の様子をこれからも取り上げ続け、学園内・地域の皆さまへの理解促進や、さらなる化学反応が生まれるハブとなれるように取り組んでまいります。

(2022/09/05)

